



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(財)日本友愛青年協会

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川文京ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@qj8-so-net.ne.jp

http://www.yuayouth.or.jp

発行人：川手正一郎

編集人：鶴巻克雄

隔月1回 10日発行

購読料

年額 3,000円

### 第八十二回理事会・第七十四回評議員会開催

## 新法人「定款案」承認・諸規定案承認

## 平成二十二年補正予算案承認

## 公益目的事業

# 「山荘運営事業・情報発信事業・国際交流事業」に決定

## 年内の移行申請に向けて大きく前進

平成二十二年九月十七日(金)、午前十時より、文京区小石川の友愛事務所三階(友愛サロン)において、第八十二回理事会・第七十四回評議員会が開催された。

今回の理事会・評議員会は、臨時開催にあたり二十二年度の補正予算、新財団の要となる「新定款」及び新定款に関する諸規程などが議題となる。移行申請前の重要な理事会・評議員会である。第一号議案平成二十二年補正予算、第二号議案新定款案、第三号議案諸規程案、第四号議案公益目的事業の選別案は満場一致で承認された。

また、休職中であつた鳩山由紀夫理事長が出席し、理事長に復職する旨を告げ、拍手をもって承認された。ここに議事録を掲載し、報告記事とする。(文中敬称略)

### 開催日時・開催場所

平成二十二年九月十七日

(金曜日) 午前十一時〇〇

分(財)日本友愛青年協会

事務所(三階友愛サロン)

### 添付資料

一、(財)日本友愛青年

協会平成二十二年補正予

算案 二、公益目的支出計

画のための予算内訳 三、

一般財団法人 日本友愛協

会 定款の変更の案 四、

一般財団法人 日本友愛協

会 諸規程案集

鳩山由紀夫理事長挨拶

挨拶の中で、鳩山由紀夫

理事長は公務の為休職中で

あつたが今理事会を以て理

事長職に復職することを宣

で、当該不都合の補正及び、その他の事業規模の見直しの為に補正予算を組む必要性が生じた。

議長は、平成二十二年補正予算案について今理事会に先立って開催された第七十四回評議員会(平成二十二年九月十七日開催)において当該予算案が全会一致で承認決議されたことを報告した後、当該補正予算案の承認について諮ったところ、全会一致で承認された。

第二号議案 移行認可のための定款の変更案最終承認の件

鶴巻克雄作成委員会委員長より、第八一回理事会で決議された一般財団法人日本友愛協会定款の変更の案の修正箇所が説明された後、当該定款の変更案の承認について諮ったところ、全会一致にて承認決議された。併せて、当該定款の変

更の案を最終案とすることが確認され、語句等の修正権を理事長に授権することを決議した。

第三号議案 移行認可後における諸規程承認の件

鶴巻克雄作成委員会委員長より、諸規程案集に掲げられた諸規程の要点について説明がされた。議長は当該諸規程案について一括審議することを提案し、全会一致で承認された。

その後、当該諸規程案の採否について諮ったところ、全会一致にて全ての諸規程案が承認決議された。

併せて、当該諸規程案を最終案とすることが確認され、語句等の修正権を理事長に授権することを決議した。さらに、当該諸規程の施行日を定款の変更案の施行日と同日にすることが決議された。

(一) 経理規程 (二) 会

員に関する規程 (三) 評議員選考委員会運営規程 (四) 役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程 (五) 評議員会運営規程 (六) 理事の職務権限規程 (七) 理事会運営規程 (八) 情報公

開規程

第四号議案 公益目的事業の選別案承認の件

鶴巻克雄作成委員会委員長より、公益目的支出計画作成のための公益目的事業の選別案について説明がされた。議長はこれについて諮ったところ、全会一致にて承認決議された。

採択された公益目的事業

①山荘事業(友愛山荘の運営)  
②国際交流事業(派遣事業・招聘事業)  
③情報発信等の事業(機関誌「友愛」の発行・ホームページ等による情報発信)

## 鳩山由紀夫理事長復職!!

### 感謝とともに意欲を表明

理事会の席上、出席した鳩山由紀夫理事長は、「総理大臣就任以来、現在まで休職をしていました。井上和子副理事長に理事長代行をお願いしていたが、私が再度移行までの期間理事長を務めます」と復職の旨を明らかにした。

これを受けて理事会は拍手で応え、その復職を歓迎した。

挨拶の中で鳩山由紀夫理事長は、自身の衆議院議員としての活動に、友愛関係者から多くのご声援をいただいたことを感謝します。

併せてここに「列席の皆様には、永年に亘り日本友愛青年協会の運営に多大なご尽力をいただいていることに、厚く御礼申し上げます。公益法人制度改革を受け、当財団も大きく様変わりをすると思います。以前にも増してご協力賜りますようお願い申し上げます。と意欲を述べた。



理事会にて「これからも財団の発展に尽くしたい」と復職の挨拶をする鳩山由紀夫理事長(写真左)

## 友愛時評

▼日本友愛青年協会が、大きく衣替えをするという。五十年ぶりといわれる「公益法人制度改革」を受けてのことだが、全国の数万ある諸団体も、同様に対応を余儀なくされている。▼当財団でも一昨年の交付・施行以来、検討委員会を立ち上げ、翌年には定款等作成委員会とし、対応にあたってきた。理事会・評議員会で検討し、数度の臨時の理事会・評議員会を経て今般「一般財団法人日本友愛協会」として申請の運びとなったようだ。▼「青年」が名称の中から消えるのは、正直さみしい思いが残る。財団創設以来六十年、青少年の育成を目的に、活動を続けてきたのだ。東京オリンピック開催時の「世界青少年村」、奥田君が頑張つて成し遂げた事業だ。全国のユースホステルの先駆けとして開設した「軽井沢友愛山荘」、その後全国各地に友愛山荘が開設され、青少年の育成、交流の場として活躍してきた。その友愛山荘も、現在は原点である軽井沢のみになった。▼世界は年々開かれてゆき、ことさらに場を設けなくても、インターネットを代表するようになり、青年たちの情報交換は容易になった。そう考えると、名称に青年を含まず、広く一般に、世界の人々に友愛が届く活動が続けていくことこそが、鳩山一郎先生の目指した姿の進化であるのかも知れない。▼活動の根底に流れているのは、人間愛だ。軽井沢の庭で、若い私に「君、寒くはないかい?」とカーディガンを着せかけてくださった。た一郎先生の優しさこそが、友愛の変わりぬ原点であるのだから。(エフ)

# 第二回日中友愛交流会開催

## 程永華駐日大使 鳩山由紀夫理事長 鳩山邦夫副理事長 井上和子副理事長

# 一堂に会す

### 日中の若者が率直な意見交換

十一月九日(火)午後四時から、東京・港区にある中華人民共和国駐日本国大使館において「第二回日中友愛交流会」が開催された。日中友愛交流会には、鳩山由紀夫理事長、鳩山邦夫副理事長、井上和子副理事長を始め財団関係者が出席、程永華大使を交えての意見交換会が行われ、和やかな中にも鋭い意見の交換がなされた。

この交流会は、昨年十一月鳩山会館で開催された第一回を期に、今後も継続的に開催してゆきたいとの当財団、駐日中国大使館の意向を実現したもので、今回は返礼の意をこめて中国大使館訪問となった。

次代を担う世代の交流、意見交換が今後の両国の理解と発展につながる、世界の平和に繋がると思われ、今回も財団側からは十二名の鳩山友愛塾修了生が参加、中国側からは、各部署より二十名の若手館員が参加、グループディスカッションなど活発に意見交換を行った。また冒頭の全体意見交換会では、程永華大使自ら参加者の質問に答え、日中友愛交流の先導役として、素晴らしい活動家振りを発揮した。



程永華大使を囲んで参加者全員で記念撮影。中華人民共和国駐日本国大使館玄関にて。穏やかな秋の日差しがふりそそぐ中、全員が笑顔で写真に納まった



出迎えた程永華大使(写真右)が歩み寄り鳩山由紀夫理事長(写真左)と固い握手

秋晴れの穏やかな陽気の十一月九日、参加者はそれぞれ港区南麻布にある駐日中国大使館に向かった。大使館では、程永華大使が笑顔で出迎という熱烈歓迎ぶりである。この会の企画、実行に尽力された湯本淵公使参事官も、玄関で皆を出迎え、満面の笑顔だ。鳩山由紀夫理事長が到着すると、程永華大使は小走り駆けて寄り、固い握手を

交わす。鳩山由紀夫理事長も、顔見知りの大使に親しげに話しかけ、日中友愛交流会は、文字通り友愛友好の雰囲気は溢れている。日差しのある内にと、参加者一堂で記念写真に納まった後、意見交換の会場へ移動、中国側参加者も一堂



参加者全員での合同ディスカッション。程永華大使が丁寧に応えた



鳩山邦夫副理事長



鳩山由紀夫理事長



程永華駐日大使



鳩山由紀夫理事長、程永華大使、鳩山邦夫副理事長、井上和子副理事長(写真左より)友愛の牽引役が揃い踏み。一つの歴史が誕生した瞬間である



に会し、会場は力強い熱気に包まれた。湯本淵公使参事官の進行で会が始まり、程永華大使が挨拶に立ち、流暢な日本語で、歓迎の意と会の意義を左記のように述べた。中国と日本は特別な関係にある二つの国です。言語の異なる国同士では、なかなか意志の疎通は難しい事ですが、両国共通の漢字を媒体に、充分な意志疎通ができる。こうした特徴を活かして、益々の中日友好を進めたい。今日は若い方から、様々な質問をいただいておりますが、私の意見をお伝えしたい。

続いて鳩山由紀夫理事長が挨拶し、「私は温家宝総理と、東シナ海を友愛の海にと話をしました。二人の思いは一つで、両国の向かう方向は同じ友好関係を求めていると思います。そうしたことの実現のためにも、今日のような交流会が開かれることに御礼を申し上げます」と述べた。

次に鳩山邦夫副理事長が挨拶に立ち、「こうした会が若い人を中心に開かれることは大変意義のあることです。私も日中両国が、固い絆で結ばれることを願っており、信じています」と述べた。その後日本側参加者から、中国の国内事情について、ノーベル賞の受賞について、戦略的互恵関係など、突っ込んだ質問が寄せられ、程永華大使が、丁寧に



湯本淵公使参事官



井上和子副理事長



川手正一郎常務理事

一つ一つの質問に答えた。合同意見交換会を終え、各部署から参加した若い大使館員、鳩山友愛塾修了生が二つのグループに分かれ、議題を定めぬ率直な意見交換を行った。熱心な議論が終了した後、大使館側が用意した懇親食会となった。井上和子副理事長が、乾杯の音頭をとった。挨拶で、最近活躍の中国映画に触れ、益々の台頭が期待されると結んだ。友愛を代表して、川手正一郎常務理事が謝辞を次のように述べた。「私は毎年植林活動で中国を訪れます。子供達は活き活きとした目をしていきます。緑が育ち、若人が元気な国は、必ず発展します。今後も中国の発展に期待しています。」和やかな歓談の時が進み、中国政治部の王さんから「中日関係が良好な時は、両国の共通点が話題になります。両国の関係が悪くなると、両国の違いが話題になります。どちらも事実で、私は益々両国の友好のために仕事をしたいです」とグループ討議の感想が述べられ、会を終了した。



笑顔は優しく、議論は鋭く、楽しく意見交換。一期生グループ



話題は多岐にわたり、若者ならではの話が弾む。二期生グループ

# 平成22年度文部科学大臣賞 第21回友愛ドイツ歌曲コンクール 本選会出演者決定



十一月五日の二次予選会を経て、十名の本選出演者が決定した。今回はソプラノ・メゾソプラノと女声ボイスの競演となった。十二月十日(金)の本選会では、華やかなコンクールが繰り広げられるだろう。ここにプロフイルをご紹介し、本選会出演者の健闘を祈りたい。本選会は四時三〇分開演、上野旧奏楽堂で行われる。本選会チケットは、当日券有り。詳しくは事務局まで。

井上詩紀(ソプラノ)

平成十九年度愛媛県高等学校独唱コンクール最優秀賞。第六一回瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール優良賞。同時に竹田市長賞・竹田市文化連盟会長賞。第四回横浜国際コンクール声楽部門大学の部優秀賞。これまでに佐々木典子、谷村由美子、菅英三子の各氏に師事。

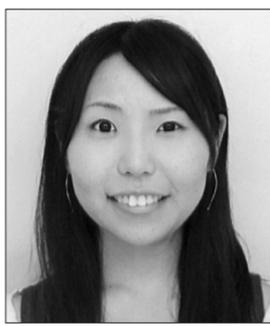
相島百子(ソプラノ)

埼玉県立松伏高等学校音楽科卒業。現在、東京音楽大学声楽演奏家コース四年在学中。これまでに声楽を高橋啓三、小林彰英、今村明美、コレベティトゥールを森島英子、阿南玲子の各氏に師事。

奥田昌世(ソプラノ)

岡山県倉敷市出身。第五

井上詩紀さん(学生の部)



相島百子さん(学生の部)

四回全日本学生音楽コンクール高校の部大阪大会第一位。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。在学中に同声会賞受賞。第二九回《台東第

九》公演のソリストを務める。これまでに、矢部禮子、嶺貞子、佐々木典子の各氏に師事。

奥田昌世さん(一般の部)



榎本真美さん(一般の部)



谷垣千沙さん(一般の部)



観堂恵理子さん(一般の部)

九》公演のソリストを務める。これまでに、矢部禮子、嶺貞子、佐々木典子の各氏に師事。

東京芸術大学音楽学部声

川辺茜さん(一般の部)



奥野恵子さん(一般の部)



小島芙美子さん(一般の部)



榎沢わか子さん(一般の部)

音楽科卒業。同大学院音楽研究科独唱専攻修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。優秀賞及び奨励賞受賞。奏楽堂日本歌曲コンクール入選。平成十九年度文化庁派遣芸術家在外研修員。ウィーン国立音楽大学オペラ科、リート・オラトリオ科にて研鑽を積む。

谷垣千沙(ソプラノ)

東京芸術大学音楽科卒業。現在、同大学院に在学中。学部在学中に安宅賞、卒業時に同声会賞、アカンサス賞、松田トシ賞、大賀賞を受賞。モーツァルトの「レクイエム」、ハイドンの「天地創造」、第五九回藝大「メサイア」などのソリストを務める。これまでに門田泰子、寺谷千枝子の各氏に師事。

観堂恵理子(ソプラノ)

国立音楽大学大学院オペラ公演で、歌劇「フィガロの結婚」伯爵夫人役で出演。第八六回二期会オペラ研修所コンサート、二期会新進声楽家の夕べに出演。第二八回ぐんま新人演奏会出演。第二八回ソレイユ音楽コンクール第三位・審査員奨励賞受賞。二期会オペラ研修所マスタークラス第五三期修了、終了時に優秀賞受賞。二期会会員。群馬音楽協会会員。

川辺茜(ソプラノ)

国立音楽大学大学院修士

課程独唱コース修了。修了時に国立音楽大学大学院研究奨励賞を受賞。大学卒業演奏会、大学院新人演奏会、レインボウ二十一コンサート等に出演。二〇〇九年「サイトウ・キネン室内楽勉強会」にて白井光子氏のマスタークラスを受講。

奥野恵子(メゾソプラノ)

尚美学園大学声楽コースを卒業。東京ミュージック&メディアアーツ尚美デプロマコース修了。二期会オペラ研修所五二期マスタークラスを修了。修了時に優秀賞を受賞。大学在学中、学内コンクールにおいて第一位を受賞。原田泉、山崎岩男、中村健、太田朋子の各氏に師事。二期会会員。

小島芙美子(ソプラノ)

国立音楽大学大学院修士課程声楽専攻ドイツ歌曲コース修了。二〇〇九年一月より一年間、ウィーン国立音楽演劇大学リート・オラトリオ科にて学ぶ。これまでに長島剛子、板倉容子、相原廣美、A・ハース、C・スペインの各氏に師事。現在、国立音楽大学大学院博士後期課程在籍中。

榎沢わか子(メゾソプラノ) フェリス女学院大学音楽学部卒業。同大学院修了。ブレイメン芸術大学に交換留学生として在籍した後、カッセル音楽院大学院修了。滞独中、オペラ「魔笛」侍女役「偽りの女教師」ラミーロ役で出演した他、宗教曲等のソリストを務めた。日本声楽アカデミー会員。東京室内歌劇場会員。

(掲載は出演順・敬称略)

## ネパールより研修留学生来日

実施事業「国際交流受入事業」の一環  
友愛山荘で沢山の出会いから日本を学習

当財団公益事業の一環として来日していた、ネパールからの研修生ヘマンタさん、六十日の研修を終え無事帰国した。帰国にあたって流暢な日本語で、滞在の感想を寄せてくださった。ここに原文のままご紹介したい。

日本友愛青年協会  
常務理事 鶴巻克雄

この十年くらいの間、趣味としているトレッキング(山間部の徒歩旅行)にネパールへ出かけるたびにガイドとしてロク・シルワルさん(四七歳)を指名して旅を楽しんできた。ロクさんは日本語が日本人以上であるだけでなく、古典文学、日本社会などについての造詣が深いうえに歌謡曲も日本人裸足といった具合で、日本のことで日本人仲間がわからないことが生じると、ロクさんに聞けと言われるくらいに異能の人とも言える日本通である。

二〇一〇年の四月、ネパール



友愛の旗のもとで(右から二人目ヘマンタさん)

の国花である石楠花を見ながら、かつてはエベレストより高い山と思われていたガウリシャンカール山を眺める五日間のトレッキングを終え、カトマンズでの食事会にロクさん夫婦を招いたところ、日本に強い関心を持っている長男のヘマンタ君を同行してきた。ヘマンタ君は父親の仲間同士の話にこころしなから聞き役に回り、誰かに話しかけられると小さな声で言葉少なに答えていた。彼は日本語、日本文化を学んできたが日本に行ったことがない、もっと日本文化、日本社会を知りたいという希望を持っていた。

初来日する彼を迎えて、どのような経験を積ませたからより良く、日本を理解させることが出来るか。名所旧跡を見せるだけでは一般の観光客と同じになってしまふ、ホームステイだけでは日本人との交流が限定的になってしまふ、幅広い

感想文を書いてもらったところ、漢字を多用した自筆の文章が届いた。これには、会話には不自由しないだろうと考えていた我々も更に驚かされた。「友愛」がヒマラヤの国ネパールに移植される可能性が膨らんできた。

## 友愛山荘での六十日間

ヘマンタ・シルワル

私はヘマンタ・シルワルと申します。今年ネパールのカトマンズから憧れの国、日本に来て三カ月ぐらいいろいろな思い出を集めました。前から日本語と日本文化に興味をもっている私は、友愛山荘で過ごした二カ月から少しお話ししたいと思っ

てお話ししたいと思います。これからは、友愛山荘で体験したことについて、



友愛事務所で一寸照れながら

ります。

国で、日本語と日本文化を学んで来ましたから、ここで暮らすことと日本人のことを理解するのは、そんなに難しくなかったとおっしゃいます。

最初のころ友愛山荘は、ずっとお客様がいらっしゃるようになって、本当に忙しいようなようすでした。ここでお仕事しているお母さん達は、この仕事は戦争といたいがら仕事をやっていました。私は、ネパールで見えなかった、七十歳上のお母さん達の、働き方、進んでお仕事する姿を見て本当におどろきました。

毎日毎日お客様がきて、帰ってまた来てという忙しさを見て、私はお母さんたちのお仕事をお手伝いすることにしました。お母さん達といっしょにお仕事することは、私にとっては、日本人のお母さん達の仕事のやり方や、人柄や、日本のいろいろなことについて、いろいろ勉強になりました。そしてたけべ(武部)さんと、日本人青年の岩崎さんと一緒に働くことができました。

しょうといったことがありました。ここへ来てお母さん達と日本人の働き方を見ると、ほんとに日本人はよくお仕事をすることがわかりました。

友愛山荘の一日のお仕事を紹介します。朝六時三十分ごろ、食堂から始まります。食堂へ行くといつも朝早くからお仕事をやっている、おじさんとお母さんのたけべ(武部)さんが、いっしょけんめいに、お料理を作っているのが見られます。それから盛りつけた食事をつくえの上のせたり、お客様にお茶とご飯の用意をした後、私達みんな同じ家族みたいに、一緒に朝ご飯を食べます。部屋の掃除したり、新しいシートやカバーなどを取り替えます。お母さん達からもらった、チョコレートや飴を食べながら、一緒に楽しくやりました。十二時半になるとお母さんのたけべ(武部)さんのお昼だよという声が聞こえます。

一緒にお昼を食べて、パイトのお母さんから持って来た、おかしを食べながら、いろいろお話をします。それからみなさん残った仕事を始めます。仕事が終わると、休む時間になります。その時、私は勉強したり、時々昼寝したり、自転車であっちこっちへ行ったりしました。お風呂をたぬることもしました。それからお客様が多くいらっしゃった時、夕食の盛り付けの手伝いもしました。

このように山荘の一日が過ぎましたが、一日の仕事が終わると、お母さん

たちはお風呂に入ったり、ゆつくりします。私は、お母さん達といろいろな話したり、時々お母さんの中山さんと一緒に酒を飲んだりしました。いつもこんな忙しい日だけ過ごした訳じゃないですね。特に夏休みがなくなって、ひまな日が多くなりました。私は「友愛理解のために」の本を読んだり、友愛のリーフレットをネパール語に翻訳したり、自転車で散歩に行ったり、パソコンで遊んだりして時間を過ごしました。

友愛山荘にいる間、いろいろなお客様と会うことは私のためによりもうれしかったです。いろいろな団体のお客様と学生さん達と音楽家のお客様達と、つぎつぎにお会いすることができました。音楽が好きな私は、ここで欧米のオペラやクラシック音楽や、ドイツ語と日本語の歌のすばらしいコンサートを楽しむことができました。

チベット仏教に興味を持っていて私は、ここでネパールに七年もいらつした日本人で、チベット仏教のナムギャル・ツォクパというお坊さんとお会いすることができて、二カ月ぶりにネパール語でお話して本当にうれしかったです。お別れの時その先生からネパール語で「ペリペトウラ(また会いましょう)。がんばってね」とやさしくおっしゃった言葉で、もっと力強くなりました。

日本の前から名前を聞いた東京大学や、わせた(早稲田)大学のような大学の

学生達や先生方とお逢いできて、少しお話できて、本当にラッキーだと思っております。

その先生方から、やさしく、がんばってね、体に気をつけてね、日本でいろいろいっしょに、いい思い出をつくらせてね、帰ってね、とやさしくおっしゃったことは、心に残っています。いろいろなお客様からも、私と国のいろいろなことをやさしく聞いて、東京の方へ来たなら、私の家に来てねとか、やさしくされたお客様とお会いできて本当にうれしかったです。

本当にいろいろ、ありがとうございます。友愛山荘で過ごした時間は、お仕事のやり方や、日本語や日本文化の勉強だけでなく、今まで見ていなかった日本と外国のことを学ぶすばらしい機会になりました。こんな素晴らしい経験の機会を紹介していただいた鶴巻先生と、保証人の三谷友子さんに心の底から感謝したいと思います。

ここにいろいろわからないことを教えてもらった、お母さんのかめだ(亀田)さんと、いつもおいしい料理をつくっていたおじさんとお母さんのたけべ(武部)さんと、いつもいろいろごちそうになったり、楽しくお仕事をしたりするお母さんの中山さんと、松井お母さんにもいろいろありがとうございました。本当にありがとうございます。

原文まま掲載。(C)は編集部注記

# 友愛ほんだな

## 現代社会の条件—格差社会と互立主義

書評欄「友愛ほんだな」へのご投稿をお待ち申し上げます。是非本欄に紹介したい本がありましたら、是非本欄に紹介をお願いします。

既成概念の通用しない時代になっていく今日、従来の価値観やイデオロギーに違和感を感じている人々も少なくない。そういう状況の中で言い得て妙、多くの人々の胸中を代弁しつつ時代の先を見据えているのが本書の特徴と言える。

だっ広い野に既成概念の箱を設けて、あなたはどの箱の何れかの箱に入らなければならぬとされれば、その何れでもない人はどの箱にも向かわないであろう、今はそういう時代状況と言えるだろう。

資本主義でなく社会主義でもない新しい社会の在り方を著者は本書を通じて模索、提案している。その新しい社会の在り方、概念を友愛であるとし、著者はそれを「互立主義」として、本当にありがとうございました。

アリストテレス以来唱えられ、フランス革命でも掲

げられた自由、平等、友愛は普遍性を帯びた概念であるから時代を超えて今日にも尚、人々の唱えるところであり、著者はそれを正義とし、全ての人が現実の社会に生きていくための指標であったとし、また一足早く世に友愛を説いたクデンホーフ・カレルギーの著書「自由と人生」を著者は引用、評価しつつも従来の友愛によって人間社会を改善しようとした方々の論理も一方的に与えるような愛を友愛として捉えていたから餓死者を無くし多くの人達を幸せにすることができなかつたとして疑問を投げかけている。著者は友愛について従来唱えられていた友愛ではない新しい互立主義を友愛と定めて新しい時代の在り方を模索していると言っている。

著者の視点では資本主義は友愛が無いために平等に欠ける。自分だけが成り立つてはよしとするから少数の富者と多数の貧困者・中間階層者に分かれ、その中間階層も次第に下流化していくとされる。また、社会主義は友愛が無いために自由に欠け、権力者以外の者を成り立たせず全ての人々の自由を抑制したうえに人民の経済的な平等までも剥奪していることになる。資本主義と社会主義との双方の既成概念の欠陥を指摘しつつその原因は友愛が無いためとする著者の視点からすれば友愛とは「自由と平等」を備えた概念であるとい

うことになる。

友愛による「自由と平等を守る互立主義」の社会は少数または特定の者だけを成り立たせるのではなく、より多くの人々が自由・平等でお互いが成り立つために協力して働かなくてはならない姿である事を著者は唱えている。

市場経済社会では、一生懸命に働いている人々の方が働かない金持ちよりもむしろ不幸になったこと、また市場・計画の両経済社会では実質的でない働きを錯覚して働いていると思いつながるような供給にも従わせていた点を指摘している著者の眼力は鋭い。

長い間、多くの人々が「自由・平等・博愛」を普遍的な概念として唱えてきたが、その博愛つまりは友愛を従来の先人達が提唱した友愛ではなく、新しい互立主義に則った友愛として資本主義でも社会主義でもない新たな時代の指針として投げかけている本書は私達に新たな道標を示唆していると言っている。

木村正治 (鳩山友愛塾修了生)

著者：青沼爽吉  
A5変形版・一九〇頁・上製本  
製作協力：北海道新聞社出版局



◆ボージョレーヌーボーというワインの宣伝広告がいつ頃から始まったのかわからないが、今年もまたワインの季節になった。ひと頃は、初売前店頭に行列が出来た人気が異様な感じもしたヌーボーだが、最近は価格も下がり往年の威勢は感じられない。それにしてもワインという酒は蘊蓄が多く、何の為にソムリエなどという資格があるのか不思議に思う。庶民にとってはいずれが葛蒲か杜若に關係なく、入手可能なワインであれば自分の舌をソムリエと信じ、侃々諤々、知ったかぶりしながら一献傾けるのも楽しみのひとつ。さて、今宵は白か赤か。国産ワインで乾杯といこう。

◆海外からの派遣員と共に広島平和記念資料館を視察した。訪れる度に気が掛かるのは、資料の一つ一つを凝視し事の悲惨さを感じ取るうとして見学者が、日本人よりむしろ外国人の方が多いことだ。毎年八月になれば決まってテレビで「原爆」をテーマとした特番が組まれる。悲惨な記憶を風化させない為にも重要なことだ。ただ、日本人にとって「原爆」が年末の歌合戦のような年中行事となつてしまふ、被爆国としての生の記憶が空洞化しているのではないかと憂慮してしまう。(GO)

◆あの暑さは何処へいつてしまったの?とお天道様に質問したくなる程、いきなり冬の様子。冷房切ったらいきなり暖房で、機器もビクビクしていることだろう。そんな年もあるだろう、永い年月には同様に、どうしてこんなに問題山積、後から後から悩みがやってくるの?という時もあり、順風満帆な時もある。悩んでいる時が成長の時と言われたので、当分悩もう! (も)

